

2014年度 中央大学共同研究費 ー研究報告書ー

研究代表者	所属機関	文学部	2014年度助成額
	氏名	松田 美佐	1,995 (千円)
	NAME	MISA MATSUDA	
研究 課題名	和文 グローバル化時代における若者たちの自己実現に関する国際比較研究 ー日本・中国・タイ・シンガポールの実態調査からー	研究 期間	2014年度 ～2016年度
	英文 An International Comparative Study on Self Actualization among Youth in the Era of Globalization.		

1. 研究組織

	研究代表者及び研究分担者		役割分担	備考
	氏名	所属機関/部局/職		
1	松田 美佐	中央大学・文学部・教授	研究総合統括	研究代表者
2	矢島 正見	中央大学・文学部・教授	国内調査統括	研究分担者
3	辻 泉	中央大学・文学部・教授	タイ事例調査統括	研究分担者
4	浅野 智彦	東京学芸大学・教育学部・教授	シンガポール事例調査統括	学外研究分担者
5	開内 文乃	中央大学・文学部・兼任講師	中国事例調査統括	学外研究分担者
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
合計		5 名		

2. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 1000 字程度、英文 100word 程度）

（和文）

本研究の目的は、日本の若者たちが今日のグローバル化社会で活躍するために必要な条件、および問題点を実証的な調査によって明らかにし、その分析を通して、若者たちのモチベーション喚起に必要な対策を具体的に構想することである。このような目的を達成するため、本研究では、国内外でそれぞれ 2 種類の調査、すなわち（1）国内調査 A（グローバル人材を志す若者に対するインタビュー調査）および B（一般の若者に対するアンケート調査）と、（2）中国（香港）、タイ（バンコク）、シンガポールにおける国外調査 A（現地でグローバル人材として活躍する日本の若者に対するインタビュー調査）および B（日本社会に関心を持つ現地の若者に対するインタビュー調査）を行うことを予定した。

初年度の 2014 年は、概ね予定通り、中国（香港）における国外調査 A および B をおこない、国内調査 B の準備をした。

前者については、まず、4～6 月にかけて、中央大学国際センターの協力を得て香港から中央大学に留学している学生（5 名）に対してインタビュー調査をおこなう一方、在外研究で香港滞在中の山田昌弘文学部教授の協力を得て、香港 SPACE（日本語教育機関）における質問紙調査（104 票回収）をおこなった。その結果をもとに 9 月に香港で行う調査の準備を進め、矢島をのぞく 4 名で 9 月に渡航した。調査時間が一人あたり 2 時間弱かかるため、また、現地で働いている日本の若者をインタビューできる時間帯は夜間に限られるため、それぞれの地域責任者を中心に、全員がインタビュー調査に携わることとなった。香港では、インタビュー調査（対象は現地でグローバル人材として活躍する日本の若者 3 名、および日本社会に関心を持つ現地の若者 19 名）をおこなった。インタビューをおこなう際に、インタビュアーと記録者で役割分担をした結果、インタビューをしながら詳細な記録を作成することができたため、テープ起こしの必要がなくなり、謝金支払いが当初の予定より少なくなった。

後者の国内調査については、10 月以降 5 回の研究会を開催し、経年比較を可能とするために、1990 年、2005 年、2009 年と杉並区、および松山市で行われた若者を対象とする調査を基礎とした質問調査票を作成した。

成果については、途中経過を『Chuo Online』で報告したが、2014 年度は時間のかかるインタビュー調査の実施とデータ収集・分析作業が中心となり、成果公表は進まなかった。引き続き、調査結果に基づくデータ分析を丁寧におこない、2015 年度には文学部紀要に論文を寄稿する予定である。

（英文）

The purpose of this project is to empirically identify the conditions, problems, and other factors affecting the ability of young Japanese to play an active role in the global community. In order to achieve this purpose, we will conduct interviews with the globally minded Japanese young as well as local young people with an interest in Japanese culture. We also plan to have a questionnaire survey of young people living in Japan. In 2014 we conducted interviews with 5 foreign students from Hong Kong, 3 young Japanese in Hong Kong and 19 young people with an interest in Japanese culture in Hong Kong. We also made a questionnaire for the survey we do in 2015.

3. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）

【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）

【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）

【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）

松田美佐,2014,「若者の『内向き志向』を考える」『Chuo Online』2014年12月15日公開